

【国土交通大臣賞】

●「こけし育む 健康・湯の里 土湯温泉」をめざした復興再生のまちづくり

(福島県福島市) 取組団体: 土湯温泉町地区まちづくり協議会

地熱を利用した再生エネルギーによる発電、温泉熱を活用したエビの養殖産業による雇用の創出等、持続可能なまちづくりを実践。空き家となった旅館跡地をリノベーションしてまちのランドマークとなる公衆浴場をつくる等、まちの賑わい創出にも着手。



温泉熱で養殖されたエビ釣りイベント



空き家をリノベーションした公衆浴場

●新たな郊外都市モデル構築に向けた“公民+学”連携のまちづくり

(埼玉県さいたま市) 取組団体: (一社)美園タウンマネジメント

埼玉スタジアムや綾瀬川等の地域資源を活かしながら、公民学連携のもと地域課題の解決に取り組んでいる。コミュニティを誘発する先進的な住宅街区の整備、電気バス急速充電システムの開発・実証等、新たな郊外都市モデルを構築中。



コモンスペースを活用した住宅街区



公共空間を活用した定例イベント

●健幸なまちづくりを実現するコンパクトシティの形成

～人口減少社会に対応して都市部と村部が持続するまち～

(新潟県見附市) 取組団体: 見附市

徒歩移動を基本とした「歩いて暮らせるまちづくり」を実施。交流拠点や交通網等を整備し、歩行者を増やすことでまちの賑わいを創出。交流拠点周辺に新規店舗の出店が続き、市民の健康増進が社会保障費等の抑制にも寄与している。



市民交流センター



コミュニティバス

●堺市における下水再生水複合利用事業

(大阪府堺市) 取組団体: 堺市上下水道局

河川へ放流する前の下水再生水を複合商業施設の熱源・水源および、市内の内川の水質改善に再利用。当該商業施設のCO2排出量を約8トン/年を削減。行政と民間企業が連携し、地元の未利用エネルギーの再利用に着手した環境配慮型の取組。



下水再生水送水ポンプ



親水空間として整備された内川

●日本初の官民連携見守りサービス

(兵庫県加古川市) 取組団体: 加古川市

約1,500台のカメラを市内全域に整備。民間企業と連携して市民に見守りサービスを提供。本取組以降、犯罪発生件数に顕著な改善効果が現れている。また、カメラから得た画像等のオープンデータを活用した地域課題解決、新サービスの実用化も検討。



見守りカメラ(市内全域)



見守りカメラ(郵便車両への設置)